

「コミュニケーション英語Ⅱ」学習指導案

長良高等学校 橋本 康秀

1 日時

平成27年2月13日（金） 第5限（13：10～14：00）

2 学級

第2学年 2年5組 （男子15名 女子25名） 文系クラス

3 学級観

明るく素直な生徒が多いクラスである。英語の習熟度にかなり差があるが、ペア・ワークに前向きに取り組んだり、授業に対して積極的に取り組む姿が見られる。人前でも堂々と話すことができる生徒もいる。

4 教材

教科書 LANDMARK English Communication II（啓林館）

科目／単元名 コミュニケーション英語Ⅱ／Bhutan : A Happy Country

5 CAN-DO リストの形での到達目標「話すこと」（第2学年） 本単元における目標

- ・聞いたり、読んだりしたことについて、情報や考えをまとめ話すことができる。
- ・学習した内容について要点をまとめて相手に伝えることができる。

6 単元の目標

「幸せの国」と称されるアジアの小国ブータンを紹介する文章を読み、学習した語句や表現を積極的に活用しながら、自分の意見を主張したり、相手の意見をまとめ、それに反論したりすることができるようになる。また、教科書本文に書いてあることを無批判に受け入れるのではなく、別の視点から考えたり、今起こりつつあるブータンでの問題などについても取り上げるなどして、批判的に読んだり、考えたりできるようになる。

7 単元の指導計画

| 活動内容 | 配当時間 |
|--|------|
| 【単元の導入と Part1 と Part2 の内容理解】 | |
| パワーポイントを用いて、ブータンの地理・歴史・文化 (part1 と part2 の内容) などについて理解する。その後教科書本文を速読し、内容を確認する。また幸福度に関するアンケートに答えたり、ペアで「いつ幸せを感じるか」について話した後で、映画「Happy」の一部を鑑賞する。Part1 と Part2 に関しては、理解の段階に留める。 | 1 時間 |
| 【①Part3~Part5 までの内容理解と発信への準備 ②帯活動でマイクロディベート】 | |
| Part3 では、本文の主題でもある GNH（国民総幸福量）という考え方方が、先進国の発展を研究して作られたものであり、ブータンが経済発展よりも、自然環境や伝統文化の保護を優先していることを理解する。Part4 では GNH の4本柱について、Part5 ではブータン人が他者とのきずなを大切にしていることを理解する。また、各パートの内容理解後は、ディベートをする際に役立つ表現などについて、音読やリテリングを通して内在化させることを目指す。毎時間帯活動でマイクロディベートを行い、反論の仕方を練習する。 | 5 時間 |
| 【最終タスクに向けた準備】 | |

| | |
|---|------|
| <p>最終タスクで行うディベートトピックを発表し、その準備に取りかかる。グループに分かれ、テーマに対して肯定側の意見と否定側の意見のマインドマップを行い、出た意見をグループごとに板書し、全体で共有する。その中から 2つ肯定側のトピックセンテンスとなるものを選ぶ。エッセイライティングの手引きを参考に宿題として肯定側の立場からエッセイを書く。肯定側に関しては、本文の英文をかなり使用して書くことができる。</p> <p>本文には近代化におけるマイナスの影響など、否定側にとって有利な情報がほとんどないため、input としてインターネットで見つけた英文を平易なものにリライトし読ませる。</p> <p>一度試合を行い、反駁された内容についての再反駁を考えたり、言いたかったがうまく英語で言えなかった表現などを確認して次の試合に向けて準備をする。</p> | 3 時間 |
|---|------|

【最終タスク：①ペアでのディベート ②代表者による党首討論】

| | |
|--|--------------|
| <p>【論題】：Bhutanese government should limit the owners of smartphone.</p> <p>ペアはそれぞれ封筒の中から situation card を引く。カードは Bhutan's happiest person が肯定側、The president of Soft Bank が否定側という立場でディベートを行う。</p> <p>ペアでの試合後に、党首討論という場面を設定し、代表生徒が全体の前でディベートを行う。参考人招致として、肯定側には国王と The happiest man、否定側には The president of Soft Bank と High school student がサポートする。残りの生徒は議員となり、試合後に投票する。</p> | 1 時間 (本時) |
|--|--------------|

8 本時の目標及び評価規準

(1) 目標

- ア ペア・ワークに積極的に参加し、間違うことを恐れず積極的に情報や考えなどについて話す。
- イ 聞いた内容について、概要をまとめたり、自分の考えを伝えたりすることができる。
- ウ 聞いた内容について、概要をまとめたり、自分の考えを伝えたりする表現を理解している。

(2) 評価規準

| ①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 | ②外国語表現の能力 | ③外国語理解の能力 | ④言語や文化についての知識・理解 |
|---|--|-----------|---|
| ペア・ワークに積極的に参加し、間違うことを探れず積極的に情報や考えなどについて話している。 | 聞いた内容について、その概要をまとめたり、自分の考えを伝えたりすることができている。 | | 聞いた内容について、概要をまとめたり、自分の考えを伝えたりする表現を理解している。 |

9 その他（ディベートを授業で行う際に注意した点）

【帯活動について】～活動時代に慣れるためにマイクロディベートを毎時間実施～

新しい活動、特にディベートやディスカッションといった活動自体の難易度が高いものを行う際に、扱うテーマや英文の難易度まで高いとあまり授業が展開されにくいと考えられる。本単元の最終タスク、「出口の活動」に位置づけたディベートを、内容に集中し円滑に行うために、比較的易しいテーマに関するディベートを毎時間行うこととした。帯活動（10~15 分ほど）で行うディベートは一つ前の単元から始め、1つのトピックは立場やペアを変え 2 度行っている。テーマは直前に発表し、原稿を作らず、メモを頼りに即興で行う。

- ①Doraemon should go back to 22nd century. ②Dogs are better pets than cats.
- ③It is better to be married than single. ④Nagara high school should abolish homework.
- ⑤High school students should have a smartphone.

【テーマ設定について】～単元の「出口の活動」としてのディベートを目指すために～

授業でディベートやディスカッションが上手くいかどうかについては、さまざまな要因が考えられるが、トピックが与える影響は特に大きく、本単元を計画する際に最も悩んだ点でもある。もしテーマが、高校生にとって興味深く、話してみたい内容であれば何とか英語で表現しようとする。しかし、本単元のテーマは生徒にとってあまり馴染みのないブータンという国についてであり、まず GNI や GNH という用語を理解することから困難なことが予想される。生徒にとって少しでも身近な話題を考えると「長良高校での幸福度を上げるために○○をすべき」や「岐阜県・日本の GNH を上げるために○○をすべき」のようなテーマにすることも考えられるが、こうしたトピックにすれば教科書本文の役割は GNH という概念を理解することには役立つが、本文で学んだ表現を使用する機会にはなりにくい。そこで、教科書本文の言語材料を最大限いかすために、ブータンの GNH に、スマートフォンという高校生にとって極めて身近な存在であり、その利点も欠点も知っているものを加えたものを今回の論題とすることとした。実際、近代化が進むブータンにおいて、インターネットやテレビの普及による影響は大きく、今後 GNH の成長度にも大きく関わることが考えられる。

【「読むこと」の位置づけ】～立論作成のために本文と、別の視点からの英文を読む～

全5パートからなる本文には、ブータンが幸福な国であり、伝統文化や自然環境をうまく守りながら経済発展を進めているという肯定的な内容が中心となっている。これらは今回のディベートのトピックに関して考えると、肯定側にとって都合のよい情報が多く書かれている。これらは音読や再話を繰り返すことで、ディベートで学んだ表現を使えるようになることが考えられる。しかし、スマートフォンが GNH の成長に有益であるということを言う否定側にとっては十分な input がない。そのため、インターネットで見つけたスマートフォンに関してブータンの若者が意見を述べている英文を平易な英語でリライトして読ませることとした。また、単元の内容に関する教師用の資料やブータンについて書かれた本から一部を生徒に与え、内容理解を深めた。

【ロールプレイ】～意見を主張する必然性を作るために～

ディベートを行うだけでもゲーム性があるため、生徒にとっては英語で意見を主張する動機となるが、今回のようにブータンというあまり馴染みのない国の政策について議論をさせる場合には、さらにロールプレイの要素と具体的な場面を設定することが効果的だと考えている。本単元においては、Bhutan's happiest person (伝統文化を大切にしている 65 歳。村のリーダーであり、最近スマートフォンを使う若者の様子が気になっている。) と、The president of Soft Bank (ソフトバンクの社長で、まだ所持率が他国と比べかなり低いブータンにビジネスチャンスを見出している。またスマートフォンの機能を使い、GNH を向上させられると信じている。) という役を設定した。全体発表では、党首討論という場面を設定し、代表生徒が全体の前でディベートを行う。参考人招致として、肯定側には国王と The happiest man、否定側には The president of Soft Bank と High school student が登場する。残りの生徒は議員となり、試合後に投票する役を与えることで、聞き手としてしっかりと議論を追うことが期待できる。

【ディベートの形式】～競技ディベートではなく、英語使用の場面確保のための授業ディベート～

ディベートは、4技能を自然に関連付けられる活動の 1 つで、話すだけではなく、情報収集のために本文を批判的に読んだり、一方的に意見を話すだけでなく、相手の意見を踏まえた上で反論をするなど英語力を伸ばすためには有効であると考えられる。しかし、競技ディベートは時間がかかり、その形式を理解することも難しいため授業で行う。そこで、本単元で初めてディベートを行うにあたり、まずは①立論②反駁③自由討論といった 3 つ過程のみとし、学んだ表現を使いながら、英語を使用してコミュニケーションをする場面を設定することを優先させた。これで試合は 15 分以内で終わり、自由討論では即興のインタラクションも見られる。現段階では、ジャッジの指導や効果的な質問の仕方までは指導できておらず、今後の課題である。

| 時間 | 指導過程 | 生徒の学習活動 | 教師の活動 及び 指導上の留意点 | 主な 評価の観点 | 評価 方法 |
|--|---|--|---|--|---------------------------------|
| 5分 | 1.small talk (warm up) | <ul style="list-style-type: none"> ペアで「When do you feel happy?」というテーマで話す。 本文のQAを行い、内容を確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> つなぎことばを使って1分間でできるだけ多く発話するように促す 何人か指名して意見を聞く。 | 自分の考えを積極的に相手に伝えているか。(①、②、④) | 活動の観察 |
| 15分 | 2. Speaking I ・ Micro-Debate 「ペアディベート」 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の役割と立場を確認する。 映像資料① ペア・ワークを通じて、ブータン政府がスマートフォン利用者を制限すべきか否かを話し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> 封筒を配布し、situation card を一枚引かせる。そこに書かれている立場でディベートをするように指示する。 各生徒のつまずきに応じて支援する。 | 学習した文法事項や表現を活用して、自分の考えを積極的に書いているか。(①、②、④) | 活動の観察 スピーキングテスト 筆記 テスト |
| Resolution: Bhutanese government should limit the owners of smartphone. ~in order to increase GNH in Bhutan~ | | | | | |
| <p>【ディベートの流れ】</p> <p>①肯定側立論 ②否定側立論 ③否定側反駁 ④肯定側反駁 ⑤自由討論 (1.5min) (1.5min) (1min) (1min) (3min)</p> <p>*反駁の前には1分の準備時間を設ける</p> | | | | | |
| 25分 | 3. Speaking II ・ Question-Hour in the National Assembly (党首討論) | <ul style="list-style-type: none"> 指名された生徒、全体の前で党首討論として、ディベートを行う。 映像資料② <p>【肯定側】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①総理大臣 ②国王 ③最も幸福なブータン人 <p>【否定側】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①野党代表 ②ソ○トバンク社長 ③ブータンの高校生 <ul style="list-style-type: none"> 聴衆（議員）の生徒は、立論が終了した時点で、それぞれのポイントが | <ul style="list-style-type: none"> 司会は教師が務める。 反駁前の準備時間に、教師は聴衆（議員）と論点の確認を行う。 反駁の終了後に、参考人招致を行いそれぞれに意見を求める。 参考人として参加する生徒には、GNH の4本柱のどの観点についての議論なのか明確にしながら質問する。 | 学習した文法事項や表現を活用して、自分の考えを積極的に書いているか。(①、②、④) 教師の質問に適切に答えているか。(①、②) | 活動の観察 |

| | | | | | |
|----|-----------------------------|--|--|--|--|
| | | <p>何かをペアで確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴衆（議員）は党首に質問することができる。 ・2名の党首は最後に自分たちの意見を要約する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・フロアから質問を募る。 ・党首2名に自分たちの意見を再度主張させる。 | | |
| 3分 | 4. SpeakingⅢ ・Voting（投票） | <ul style="list-style-type: none"> ・聴衆（議員）は投票する。代表者は理由を発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・議論終了後に voting issue を決め、投票させる。 | | |
| 2分 | 5. Wrap – up ・まとめ | | <ul style="list-style-type: none"> ・本日のまとめを行う。 | | |